

家庭ごみの有料化を検討する上での本市の現状について

1 全国のごみ有料化の実施状況

有料化実施率は、市町村合併による新しくできた市の実施率が高かったことなどから、平成 12 年後半に急増し現在も緩やかに増加しています。神奈川県は岩手県に次いで 2 番目に低くなっています。

表 家庭ごみ有料化実施市区町村の数（平成 27 年 7 月現在）

	総数	有料化実施	有料化実施率
全国市区町村	1,741	1,094	62.8%
うち、神奈川県	33	4	12.1%

※以下、データ等は、各市町に照会した内容や山谷修作東洋大学教授による調査結果を引用。

2 神奈川県内のごみ有料化の実施状況

市町名	有料化開始年月	有料化実施の理由・動機
二宮町	平成 13 年 10 月から	ごみの増加
大和市	平成 18 年 7 月から	ごみの増加
藤沢市	平成 19 年 10 月から	最終処分場のひっ迫
鎌倉市	平成 27 年 4 月から	焼却施設の減少
逗子市	平成 27 年 10 月から	最終処分場のひっ迫

3-1 本市のごみ排出量の現状

総ごみ排出量は、平成 23 年度から 25 年度にかけて増加しましたが、平成 26 年度に減少しています。さらに、平成 27 年度 8 月分までの速報値では、減少した平成 26 年度比で、可燃ごみ-308t(-1.76%)、不燃ごみ・粗大ごみ-24t (-2.71%) となり、引き続き減少傾向がみられます。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総ごみ排出量	52,273t	52,862t	53,022t	51,957t
家庭系ごみ	44,013t	44,378t	44,551t	43,525t
事業系ごみ	8,260t	8,484t	8,471t	8,432t
市民一人 1 日当たり (資源物除く)	675.8g	687.9g	698.3g	689.0g

3-2 市民一人1日当たりごみ排出量の県内各市との比較(25年度)

本市の市民一人1日当たりのごみ排出量(資源物含む)は880gであり、県内19市の平均900gや伊勢原市908gと比較して少なく、少ない方から数えて5番目です。(平成25年度一般廃棄物処理事業実態調査結果)

【近隣及び有料化実施市町との比較(平成25年度)】

市町名	一人1日当たりのごみ排出量(資源物含む)
県内19市平均	900g
秦野市	880g
伊勢原市	908g
二宮町	807g
大和市	852g
藤沢市	894g
鎌倉市	1017g
逗子市	920g

3-3 本市のごみ排出量の課題

本市は、一部事務組合を組織する伊勢原市とともに、ごみ処理基本計画において、30年度頃をめどに、はだのクリーンセンターだけで安定的に処理できる量までの減量を目指してまいりました。しかし、ごみ排出量の現状を考慮すると、90t焼却施設を継続的に稼働させていくことも想定されます。同施設は稼働から30年を経過し、焼却設備の老朽化、劣化も見られます。そのため、秦野市伊勢原市環境衛生組合では、主要設備・機器の管理基準や整備スケジュール等、一定期間を設定した合理的で効率的な維持管理計画を策定することとしています。

3-4 本市のごみ処理経費

二市組合分担金の減額(クリーンセンター工事費等の減)等により減少しています。また、処理経費の減額に伴い、一般会計に占める割合は4%台から3%台に低下しています。歳入は、廃食用油や小型家電の売却等を実施しています、平成25・26年度にペットボトル及び廃プラスチックの売却単価が下がったこと等から全体として減少しています。

(単位：千円)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
処理経費	1,815,780	1,809,325	1,712,944	1,677,561
一般会計決算額	42,947,130	42,242,180	43,680,380	46,232,315
一般会計決算に占める割合	4.2%	4.3%	3.9%	3.6%
充当歳入	123,440	124,140	112,448	109,052
歳入充当率	6.8%	6.9%	6.6%	6.5%

4 ごみと資源の収集区分及び手数料・補助金関係の経過

	収集区分	手数料・補助金関係
昭和 47 年 4 月	可燃ごみ・不燃ごみの収集開始	
昭和 59 年 4 月	使用済乾電池の分別収集開始	
平成 3 年 7 月	ペットボトルの分別収集開始	
平成 7 年 7 月	半透明ごみ袋の導入	
平成 7 年 8 月	粗大ごみ有料戸別収集の開始	
平成 9 年 4 月	リサイクルビンの分別収集開始	
平成 9 年 7 月	公民館等で牛乳パック、白色トレーの拠点回収開始	
平成 11 年 4 月		生ごみ処理機購入費補助制度導入
平成 11 年 11 月	6 分別 19 品目の分別収集開始	
平成 13 年 9 月	廃プラ・古紙・衣類の拠点回収開始	
平成 14 年 4 月		生ごみ処理機購入費補助上限額の引上げ
平成 14 年 7 月	ほほえみ収集（高齢者等の戸別収集）の開始	
平成 16 年 4 月		生ごみ処理機維持管理費の上乗せ補助、業務用補助開始
平成 17 年 4 月		一般廃棄物処理手数料、粗大ごみ処理手数料改定

	収集区分	手数料・補助金関係
平成 20 年 1 月	剪定枝の分別収集開始 (7 分別 20 品目の分別収集)	
平成 20 年 2 月	夜間戸別収集(東海大学前駅周辺南 矢名 1 丁目地区)の開始	
平成 23 年 9 月	廃食用油の分別収集開始 (7 分別 21 品目の分別収集)	
平成 25 年 2 月	ペットボトルのべール化開始	
平成 25 年 6 月	木質系粗大ごみの資源化開始	
平成 26 年 2 月	小型家電リサイクル事業開始 (7 分別 22 品目の分別収集)	
平成 27 年 4 月	布団・毛布の資源化開始	生ごみ処理機購入費 補助にディスプレイ を追加